

滝子山山行報告

【山行日】2017年 11月 12(日) 晴れ

【集 合】岩舟支所P AM 5:00

【費 用】マイカー1台 : 2,900円

【メンバー】CL:鈴木、 梶内、大西、島田、
関、鶴見、福田

【コースタイム】岩舟支所 P5:00 = 桜森林公園

P7:00/7:15~寂ショウ苑 7:30~送電塔 8:00/8:10~

滝子山 11:10/11:20~三角点峰 11:25/12:00~

白縫神社 12:15~すみ沢 13:10~道証地藏 14:15~

桜森林公園 P14:40/14:50 = 笹一酒造 15:05/15:30

= 岩舟支所 P18:30



山頂からの秀麗な富士山と、すみ沢の溪流と紅葉をもう一度見たいとリクエストがあり計画した。滝子山の登山道はいくつかあるが、秋は日差しを受けつつ登る寂ショウ尾根が最適の登山道だ。東北道から圏央道、中央道と乗り継ぎ、大月ICで降りて桜森林公園の駐車スペースに車を止める。



公園と言ってもトイレは無いので、手前のコンビニで済ませてきた。準備を整えストレッチを行ったら出発する。桜森林公園の先で大鹿川を渡り、少し進むと右へ向かう細い道路があり古く小さな「寂ショウ苑」とかすかに読める道標がある。道標を右に進むと朽ちかけた寂ショウ苑の建物があり、その前が寂ショウ尾根の入口だ。樹林帯の中、沢沿いの道を進むと尾根の急坂を登るようになり、九十九折れに登ると送電塔に出る。送電線の工事中で、鉄階段の迂回路を登ると大鹿林道に出る。

林道を右に少し進むと登山道への入口があり、ここからは美しい広葉樹林の尾根を登るようになる。

ぐんぐん高度を上げて行くと、ブナ林の間から三ツ峠山や富士山の姿が見えるようになる。さらに高度を上げて行くと岩稜帯の細尾根を登るようになり、ロープや木の根を頼りによじ上って行く。

このあたりからペースダウンしたので小ピークで小休止し、K 内さん手作りのスイートポテトでエネルギーを補給する。ここから少しアップダウンを繰り返し、急な坂道を登ると東西に走る主尾根に登り上がる。浜立山と滝子山の間に出て、標識に従って右に滝子山に向かって進む。この先小さなピークを2つ越え



クを2つ越え、滝子山山頂へ着く。山頂からは360度の大自然の大パノラマが得られ、南には富士山や三ツ峠山、北側には奥秩父の山々や雁が腹摺山、雲取山が連なっている。大勢の登山者が休憩し

ており、昼食を食べたり写真を撮っていた。我々も山頂標識の前で、富士山をバックに記念写真を撮り大休止する。それぞれ景色を楽しみ写真を撮り終わったら、山頂を後にして三角点ピークに移



動する。山頂は混雑するので、ここでランチタイムとしキノコうどんを作り美味しくいただく。

デザートのリンドを食べて、熱いお茶を飲んだら下山する。下山は滝子山へ向かって少し戻り、分岐を右に笹子駅方面へ向かって降りて行く。滝子山の北側を下って行くと、鎮西八郎為朝と妻白縫姫伝説が残る鎮西ヶ池があり、池の畔には白縫神社が祀られている。この先から雑木林の緩やかな道を下り、少し登って尾根に出ると防火帯の広い道を下るようになる。防火帯の道から左に下ると沢沿いの道になり、

小沢の右岸を下って行く。やがて道が二つに分かれ、右は沢を高巻く一般向けで左は沢沿いに下る「悪路キケン」と書いてある。二手に分かれ、健脚組は悪路キケン沢沿いの道を下る。ここからがすみ沢の最も美しいポイントで、足元は悪いが慎重に下れば問題なく下れる。花崗岩と清流が織りなす溪流は滑滝や小滝が連続し、大滝はカエデの紅葉と併せてとても素晴らしかった。大滝の先で道は合流し、分かれた三人と一緒に下る。ここからは植林帯の道となり、沢沿いに下って行くと橋を渡った先で林道に出る。



ここが道証地蔵で林道を左に進み、寂ショウ尾根への分岐を過ぎると橋を渡り、桜森林公園駐車場に戻った。靴を履き替えザックを積んだら「笹一酒造」の新酒祭に向かう。毎年11月の第2土日は新酒祭のイベントが催され、新酒の試飲や地元の物産を販売する。皆さんはお土産を買いに行くが、我輩と K 内さんは1000円でグラスを購入し、新酒やワインを好きなだけ飲むコーナーへまっすぐ向かう。地鶏の炭火焼きを着に新酒とワインをいただくが、グラスの6分目くらいしか注いでくれないので忙しい。アツと言う間に出発の時間となり、仕方なく引き上げる。車の中でもお土産にもらった大吟醸酒をいただき、酔っ払いおっさんの話で騒がしくするうちに岩舟支所に到着した。

